



コミュニティメディア立ち上げ

■「コミュニティメディア立ち上げ」PJのご紹介：中島

—特徴①:完全オンライン

—特徴②:インナープロジェクト

—特徴③:プロジェクト？

参加者・コミュニケーションの方法

プロジェクト開始時～実施中の主な活動

本PJ終了後について

■プロジェクト後の展開：吉田

—①:概要説明

—②:活動内容詳細

—③:今後の展開

STEP 2 の概要説明

主な活動内容について詳細報告

今後の展開のご説明

特徴①

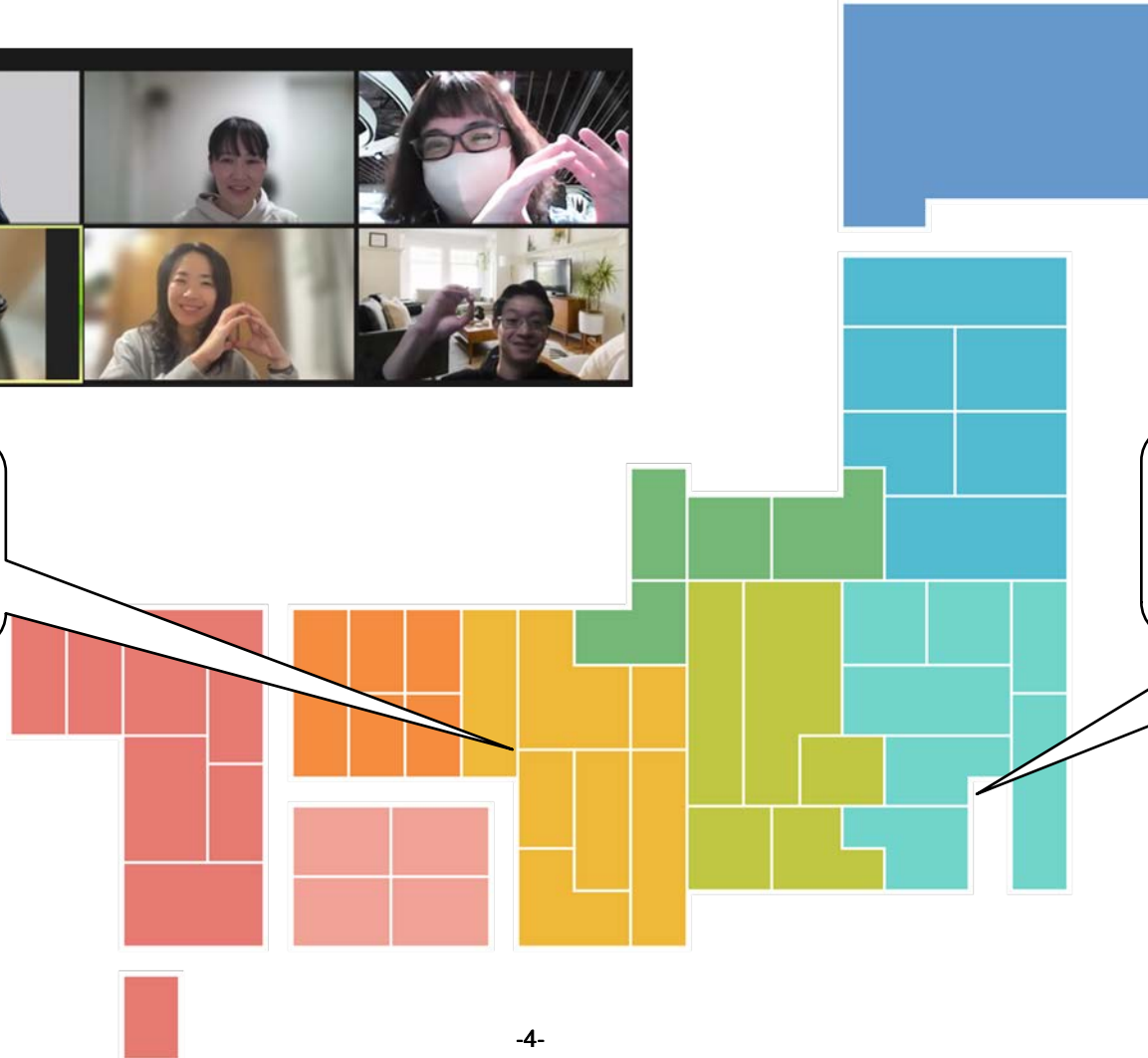
完全オンライン

参加メンバーは関東・関西から参加、毎週オンラインで打ち合わせを実施



関西方面から参加

関東方面から参加



特徴②

インナープロジェクト

以下課題に対し、プロジェクトメンバーによる情報収集・現状分析から開始

プロジェクトの背景・問題意識

活動成果や参加による変化などプロボノワーカーの声を十分に発信できていない
社会課題解決活動のさらなる広がり、新たな出会いの創出ができていない



各種調査を行い、よりよいコンテンツの発信・場づくりを検討し
サービスグラントの新たなメディアの立ち上げに挑戦

段階的な詳細化を行い、スケジュールを見直しながら推進（以下は最終版）



①内外環境分析

サービスグラントのVision

社会参加先進国へ

社会課題を前に、誰かが行動を起こすことのできる機会が、すでに存在する。多様なそれぞれが互いの違いを尊重し、可能性を活かし合いながら当たり前に参加できる。それが、私たちが目指す、「社会参加先進国」です。

今、「プロボノ」は、非営利団体の活動を推進させる力として、またビジネスパーソンの社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。サービスグラントが切り開き、これまでの実践を通じて培ってきたもの、それは単なる手段や手法ではありません。複数の主体が共通の目的のもとに協働し、成果を生み出すまで、何が求められ、何が力となるのか。私たちの知見は、これらの普遍的な問いに対して常にアップデートされ続けています。

サッカーをする人が、ボールさえあれば誰とでもプレーを楽しめるように。音楽を愛する人が、国を超えて歌い、語り合うように。

サービスグラントは、日本と世界の国々を社会参加先進国にすることを目指し、挑戦を続けます。

インタビューによる課題の抽出

参加者がコミュニケーションを続けられる場？

知識や経験を蓄積する場？

認知が少ないので、活動を発信できる場？（認知と継続）

→ コミュニケーションの場の必要性や、既存コミュニティの実効性向上を感じている。

内外環境から推測する仮説と、インタビューアンケートなどから、プロボノワーカーに向けてのアプローチが課題と考える。その際に「継続的なネットワーク継続の場」「知識や経験を蓄積する場」「潜在ワーカーや継続が止まるワーカーに対しての認知の場」などがポイントと考える。

②コミュニティメディア運営方針

3. コミュニティメディアのイメージ 比較例 1) オンライン市役所

公務員限定の「コミュニティ」の機能は仕事直結型・共通スキル
⇒コミュニティ（グループ）の機能は仕事直結型・共通スキル

メインコミュニティ「オンライン市役所」
⇒自前メディア（+Facebookページ）利用

出所：オンライン市役所 <https://www.online-shiyakusho.jp/>

3. コミュニティメディアのイメージ メインコミュニティの運営方針検討

立ち上げ目的（SGニーズ・課題）を踏まえメインコミュニティのコンセプト・方針を検討
⇒何のために、どのような機能で、どのような場を設けて、どのような人が参加して、・・・等を検討

何のために：「社会参加先進国」の実現
何を：出会い・交流・学びの場の提供
どのように：社会課題への関心・理解を高める 社会参加へのきっかけになる

コアメンバー、ノンコアメンバー、新規メンバーが同じ割合で参画し続けているような場づくり

コミュニティごと、オープン、招待制、期間限定・入替制など性質に応じたメンバーシップを設計

③ニーズ調査（アンケート実施・分析）

プロボノ/有志によるスキル勉強会の参加意向に対する回答

Q: 日常業務やサービスグラントで行う支援に役立つ、以下のスキル勉強会なら、参加したいですか？

プロジェクトマネジメント	87
マーケティング	87
ビジネスアナリスト	87
ウェブディレクション	69 (23.5%)
インタビュー調査	87 (29)
アンケート調査	87 (29)
ライティング	84 (28.1)
動画制作	86 (29)
デザイン	84 (28.1)
パワーポイント作成	83 (28.2)
ワークショップ運営	83 (28.2)
特に参加したくない	30 (10.2%)

プロボノワーカータイプごとの傾向分析（PJ参加回数から）

コアメンバー (PJ参加回数)

- SGのFacebook/Slackも利用している
- GRANTの情報を知りたい
- 情報発信・コミュニティ参加・交流全般に前向き
- 対象に見合った内容であれば有料コミュニティもアリ

ノンコア (1回程度)・見込 (未経験)

- SGのFacebookページはフォローしていない
- PJ参加者・支援者の声や過去PJ情報を知りたい
- プロボノに関するノウハウ、自分にとっての学びの場を知りたい
- PJメンバー内での交流には前向き

④運営計画検討（α版）

グラドルール案（α版コミュニティ用）

- 出来るだけオープンでのびのびとしたコミュニティにするためには、あまり制約が多くない方が良く、円滑かつ安全なコミュニティであるために、社会的なマナーに基づき最低限のグラドルールは定めることとする。

実名で参加する

- 実名に対するプロジェクトに関わってくることも想定し、プロボノワーカーとして登録している/登録予定の名前で参加する

守秘義務を守る

- コミュニティ内で知り得た個人情報などはコミュニティ内に留めることとし、無断で外部に持ち出さない

互いに敬意を持って接する

- コミュニティメンバーひとりひとりに敬意を持って接し、差別や無用な否定をしない。

広告やスパムを投稿しない

- コミュニティの運営と関係のない利己的な広告やスパムを投稿しない

コンテンツの無断転用、イベントでの無断録音、録画の禁止

- ナレッジシェアの一環としてアーカイブされるコンテンツや、コミュニティ内で開催されるイベントなどの無断転用・録音・録画は禁止とする

他のメンバーの発信に、積極的にリアクションをする

- 活発な交流の場を目指し、発信があたたく受容される雰囲気を作る

開始時
何をやってよいか分からず、サービスグラントのWebを読み込んだ

活動中
自身の経験を活かして役割に対応していけるようになった

参加後の所感

- ・ “普段仕事では使わない筋肉”を使い今後活かせる力がついた
- ・ 社会課題解決に向け自身が何をしたいか考える機会になった
- ・ 多くの仲間がいることを実感でき元気になった



特徴③

プロジェクト？

「プロジェクト」は終了したが、サービスグラントが掲げる目標達成に向けまだ取組は続く

コミュニティメディア運営開始までのステップ(案)

■ 本プロジェクトを通じて立ち上げるコミュニティメディアがサービスグラントの活動におけるメインプラットフォームとして根付いていくように、本プロジェクトを取組STEP1と位置づけ、今後はサービスグラントが中心となりプロボノワーカーと協業しながら以下に示すような段階を踏んで運営を本格化していくことを提案する。

	STEP1(2022.06~2022.10)	STEP2(2022.12~2023.03)	STEP3以降(2023.04~)
要旨	業界環境、内部環境を把握し、SGのあるべき将来像から、コミュニティメディアの全体像を立案し、今後の取組ステップを提示する。	STEP1で立案したコミュニティメディアの概要を基に、α版の運用。そこで得たノウハウを使いβ版運用スタートの準備を行う。	スタートしたコミュニティメディアの管理、改修を行う。イベントなども企画し、自発的に熱量が高まり、自走可能な状態を目指す。
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 概要分析 ■ あるべき像の立案と課題の抽出 ■ ニーズ調査 ■ α版準備開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ α版を立ち上げ、運用の上で傾向分析 ■ イベントトライアル ■ β版運用上のニーズ調査 ■ 他チーム他イベントとの連携 etc 	<ul style="list-style-type: none"> ■ モニタリング ■ 不具合改修 ■ イベント etc
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティメディア立案に至るまでの分析資料作成 ■ コミュニティメディアの全体像立案 ■ α版プラットフォーム(workplace)立ち上げ ■ α版運営・グランドルール案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ α版の運用の結果報告 ■ 運用から得た情報によりβ版運用構成立案 ■ α版グランドルールの改訂 ■ β版運用準備の完了 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運用開始したβ版プラットフォームの動向を確認しながらブラッシュアップ。 ■ 事実から運用マニュアル改修。 ■ コミュニティを盛り上げる施策検討。 ■ 自走可能な状態まで何クールか行う。



プロジェクト後の展開
～ Pro Bono Place 立ち上げ ～

① 概要説明

■現在はSTEP 2の中で、実運用開始に向けてのルール作りをしながら本番用へ移行中です。

	STEP1(2022.06～2022.10) コミュニティメディア立ち上げ	STEP2(2022.12～2023.04) プラットフォーム構築	STEP3以降(2023.05～) 本運用フェーズ
要旨	業界環境、内部環境を把握し、SGのあるべき将来像から、コミュニティメディアの全体像を立案し、今後の取組ステップを提示する。	STEP1で立案したコミュニティメディアの概要を基に、試運転を開始。そこで得たノウハウを蓄積しながら本番用スタートに移行していく。	スタートしたコミュニティメディアの管理、改修を行う。イベントなども企画し、自発的に熱量が高まり、自走可能な状態を目指す。
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 概要分析 ■ あるべき像の立案と課題の抽出 ■ ニーズ調査 ■ 試運転準備開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 試運転を開始し、運用の上で傾向分析 ■ イベントトライアル、他チーム他イベントとの連携 ■ 運用上のニーズ調査 ■ Workplace利用説明会 etc 	<ul style="list-style-type: none"> ■ モニタリング ■ 不具合改修 ■ イベント etc
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティメディア立案に至るまでの分析資料作成 ■ コミュニティメディアの全体像立案 ■ お試し版プラットフォーム(workplace)立ち上げ ■ お試し版運営・グランドルール案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ α版の運用の結果報告 ■ 運用から得た情報により運用構成立案 ■ グランドルールの改訂 ■ 本番用として運用の移行 ■ 利用者が使い方を理解している状態 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運用開始したプラットフォームの動向を確認しながらブラッシュアップ。 ■ 事実から運用マニュアル改修。 ■ コミュニティを盛り上げる施策検討。 ■ 自走可能な状態まで何クールか行う。

- ツールの決定（Workplace）
- プラットフォームの名前の決定
- ガイドライン作成
- 管理者ルール設計
- グラドルール作成
- Workplace使い方説明会の開催

②活動内容詳細

■可能性のあるツールを比較し、Workplaceを活用することに決定。Meta社の方へのヒアリングも行った。

	プロジェクト遂行	ナレッジシェア	ネットワーク構築 (横連携)	理解のしやすさ	料金・制限	管理
workplace	○ミーティング可 (外部ツールとの連携も一部可能)	○全体グループと小グループを設定したりライブラリ機能もあり	○全体へのアナウンスなどが簡便	○facebookに近い操作感	◎非営利組織は無料 (利用者制限なし)	○参加者の権限・グループの権限・グループの作成等細かく権限調整がしやすい ただし、会社での利用が前提のため登録方法は要検討
Teams (SharePoint)	△機能は申し分ないが、Officeが使えないメンバーがいると困難 ミーティング可	△イントラ的機能はSharePointになるが、一時的なグループ作成などが難しい	△自由なグループの設置が困難	△会社等での利用経験者にはわかりやすい	× Microsoft 365 の利用が前提。PBWに対して Microsoft 365 無料プラン適用は困難	×参加者の権限・グループの権限・グループの作成等細かく権限調整がしやすいが、Microsoft 365 グループ前提
Slack	○ミーティング可 (外部ツールとの連携も一部可能)	△横連携のためにはワークスペースを統合する必要がある	△横連携のためにはワークスペースを統合する必要があるが、統合するとチャンネル増設の利便性が低くハードルが高い	○機能が限られているため	△無料だと3か月でデータが消失。NPO向けプラン適用にはスペースごとに操作が必要	△プロボノワーカーが立ち上げたスペースは、他の人による管理や消去までの対応が不可。有料プランへの登録に手続きが必要
Google work place	○スペースにてchat、ファイル、タスク管理のみ。ミーティング可 (Currentsは2023年に終了)	△新たな人のつながりをつくる部分がやや困難	△スペースの機能が少なく、自由なグループの設置やダイナミックな横連携などは困難	○ユーザーフレンドリー	◎Google Workspace for Nonprofitsの利用が可能	×@servicegrantドメイン以外の紹介は不可能

Pro Bono Place は、みなさんをつくる場所です。

[グラドルール]

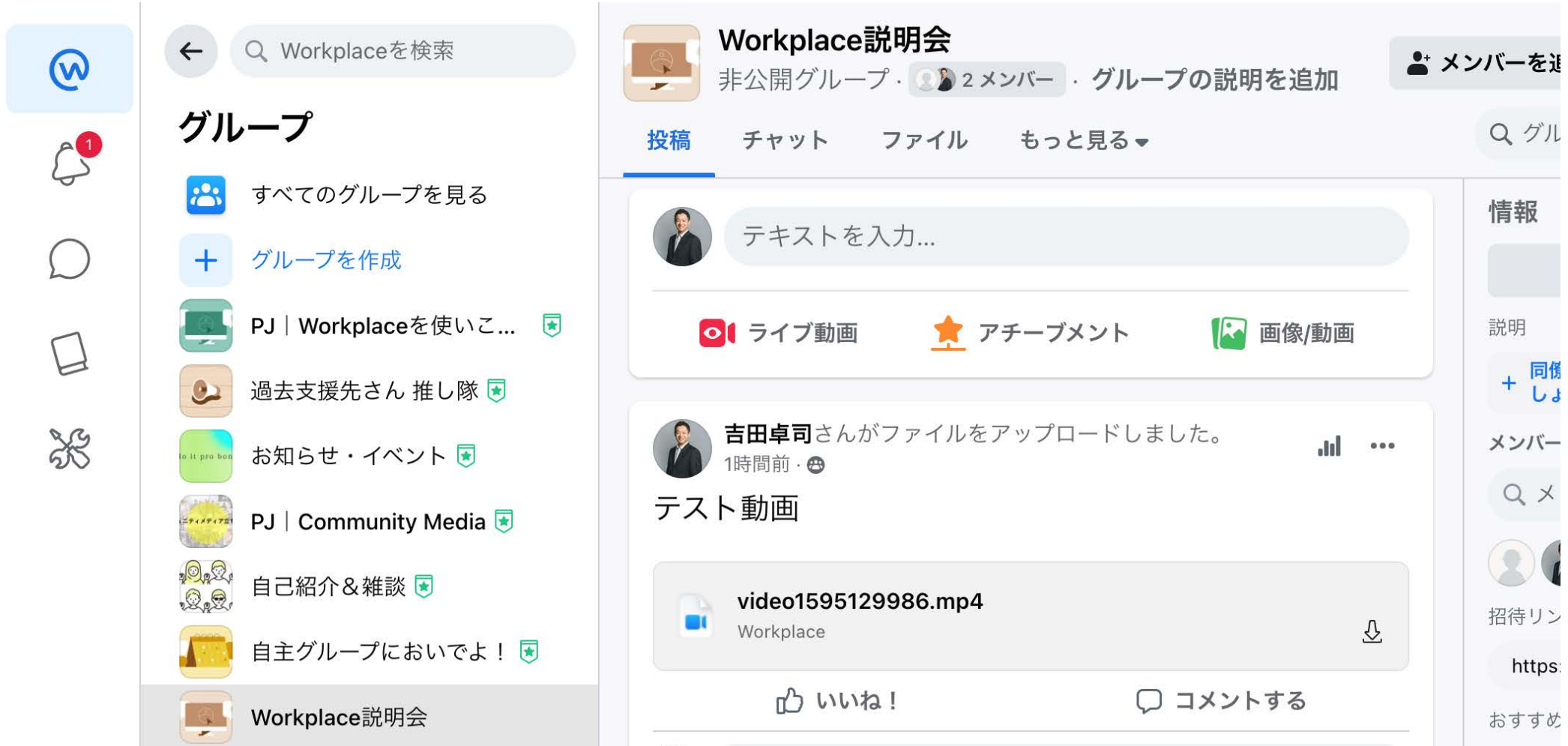
- 社会課題に関心を持ち、解決を願う人が参加します。
- 情報をシェアしたり、アイデアを出し合います。
- 否定はしません。みんなのチャレンジや学びを応援します。

—— さあ、一緒にプロボノを楽しみましょう！

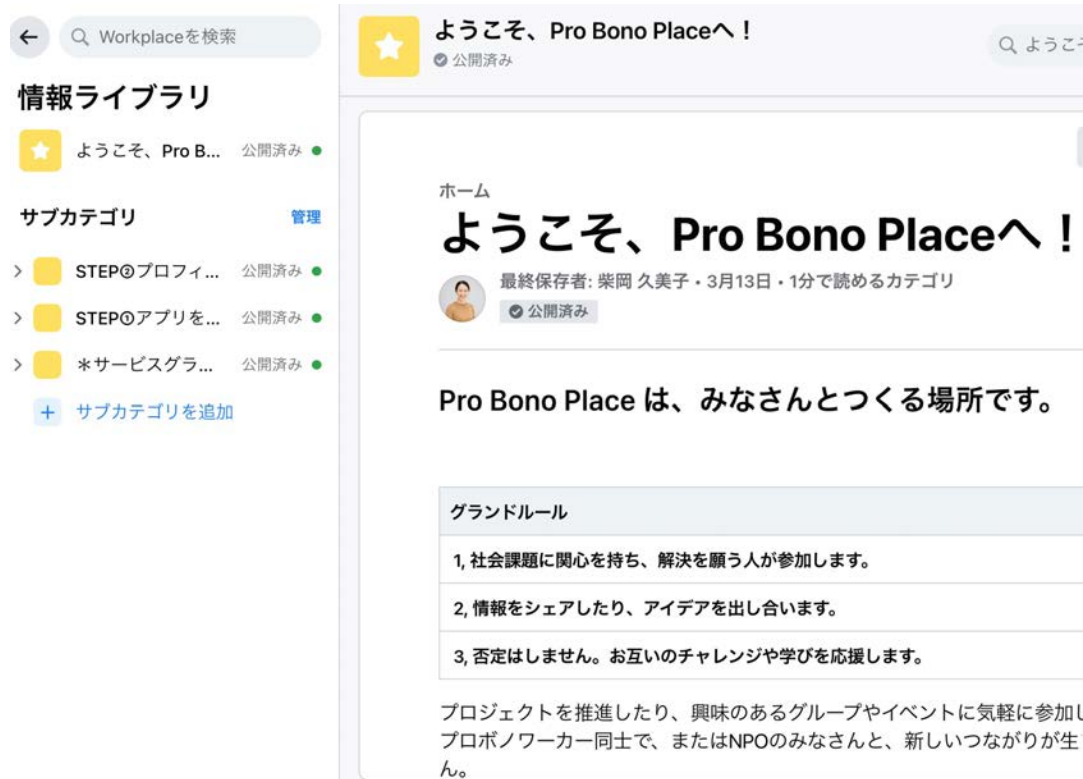
プロジェクトを推進したり、興味のあるコミュニティやイベントに気軽に参加してみてください。プロボノワーカー同士で、またはNPOのみなさんと、新しいつながりが生まれるかもしれません。

** 何か困ったことがあったら、スタッフにチャットでお知らせください。

- Pro Bono Place 内では、プロジェクト活動、イベントへの参加、プロボノワーカーごとのネットワークの構築などができるようになります。




■ 管理者用・利用者用のガイドライン、利用ルールの作成も進行中。


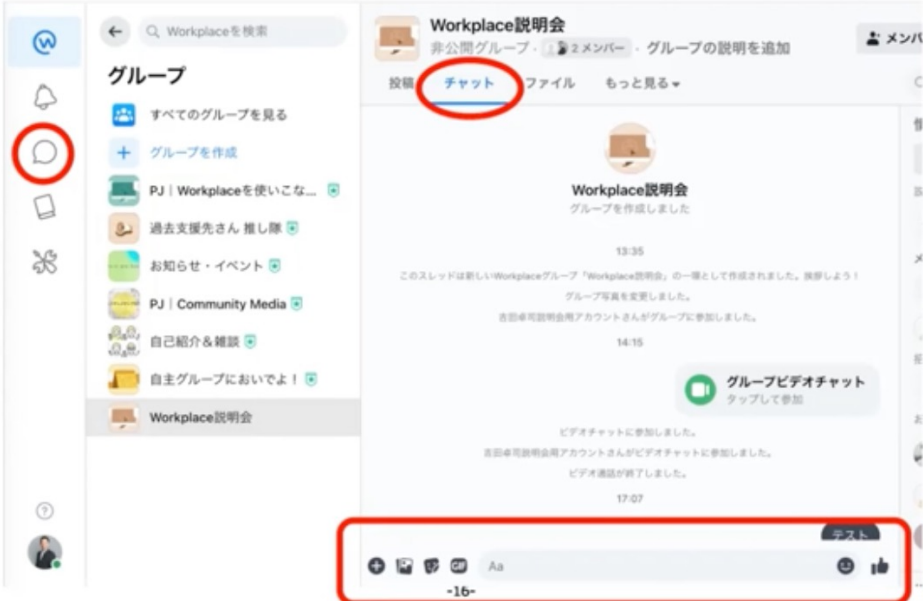


■ 今後実際にPro Bono Place を活用される方に向けてWorkplace利用説明会を実施。

チャットをしてみよう



- チャットは左のチャットボタンか、グループ内のチャットタブのどちらかから入ることができます。
- Workplace chat アプリを入れている方はそちらからの送受信も可能です。



-16-

③ 今後の展開

■プラットフォームとしての本運用ステップに移行します。

	STEP1(2022.06～2022.10) コミュニティメディア立ち上げ	STEP2(2022.12～2023.04) プラットフォーム構築	STEP3以降(2023.05～) 本運用フェーズ
要旨	業界環境、内部環境を把握し、SGのあるべき将来像から、コミュニティメディアの全体像を立案し、今後の取組ステップを提示する。	STEP1で立案したコミュニティメディアの概要を基に、試運転を開始。そこで得たノウハウを蓄積しながら本番用スタートに移行していく。	スタートしたコミュニティメディアの管理、改修を行う。イベントなども企画し、自発的に熱量が高まり、自走可能な状態を目指す。
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 概要分析 ■ あるべき像の立案と課題の抽出 ■ ニーズ調査 ■ 試運転準備開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 試運転を開始し、運用の上で傾向分析 ■ イベントトライアル、他チーム他イベントとの連携 ■ 運用上のニーズ調査 ■ Workplace利用説明会 etc 	<ul style="list-style-type: none"> ■ モニタリング ■ 不具合改修 ■ イベント etc
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティメディア立案に至るまでの分析資料作成 ■ コミュニティメディアの全体像立案 ■ お試し版プラットフォーム(workplace)立ち上げ ■ お試し版運営・グランドルール案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ α版の運用の結果報告 ■ 運用から得た情報により運用構成立案 ■ グランドルールの改訂 ■ 本番用として運用の移行 ■ 利用者が使い方を理解している状態 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運用開始したプラットフォームの動向を確認しながらブラッシュアップ。 ■ 事実から運用マニュアル改修。 ■ コミュニティを盛り上げる施策検討。 ■ 自走可能な状態まで何クールか行う。

4つの領域からプロボノワーカーの背中を押す

ナレッジシェア

★活動に関わる
ノウハウやスキルを学ぶ

★参加者の声を見たり
聞いたり出来る

ネットワーキング

★プロボノ同士の
横のコミュニケーションが取れ
る

プロボノワーカーの
新たな一歩に繋げる

★挑戦してみようと思える
場所がある

★コミュニティを通して
相乗的に熱量が上がる

機会創出

熱量の醸成

EOF
